

平成23年度 新宿歴史博物館 所蔵資料展

平塚運一と落合の版画家

平成23年12月10日（土）～24年2月5日（日）



前列左から3人目が平塚運一。後ろは料治熊太、
右は谷中安規、左は川上澄生（1933年1月料治家）



会場：新宿歴史博物館 地下1階 企画展示室

休館日：12月12日（月）、1月10日（火）、23日（月）、

※12月22日（木）～1月3日（火）まで燻蒸作業・年末年始のため休館

観覧料：無料

主催：公益財団法人新宿未来創造財団

〒160-0008 新宿区三栄町22番地 TEL 03-3359-2131

<http://www.regasu-shinjuku.or.jp/rekihaku/>

新宿区の落合地域は、林芙美子などの作家、佐伯祐三、中村彝などの洋画家が住んだことで知られていますが、日本を代表する版画家の平塚運一も住んでいました。

平塚運一（1895～1997）は昭和7年西落合にアトリエを構え、下絵、彫り、摺りを一人で行う日本の創作木版画家の第一人者として活動しました。後年はアメリカでも活躍し、102歳で亡くなるまで版画を作り続けました。同じく西落合に住んだ古美術研究家の料治熊太（1900～1982）は自らも版画を制作しながら、版画雑誌を発行し、若き日の平塚運一、棟方志功、谷中安規などの作品を紹介し世に送り出しました。そのほか、世界中の風景を写實的に描いた画家・版画家の吉田博（1876～1950）も下落合にアトリエを構えていました。

本展示会では、平塚運一の初期から中期にかけての木版画50点を中心に、料治熊太が発行した版画雑誌『白と黒』『版藝術』の紹介、あわせて日本版画院同人理事で現在も活躍する岩崎浩三の落合を描いた木版画15点、合計75点あまりを展示します。



「きつつき」
平塚運一（1930年）



「大同石仏ピシュヌ」
平塚運一（1948年）



「円空仏」
岩崎浩三（1988年）

関連講演会

「平塚運一と棟方志功」

日本を代表する二人の版画家の出会いや作品の特徴を解説します。

【日時】12月17日（土）14時～16時

【講師】石井頼子（棟方板画美術館学芸員）

【会場】新宿歴史博物館2階講堂

【定員】60名（応募多数の場合抽選）

【参加料】500円

【申込み】往復はがき・HPで新宿歴史博物館まで。12月1日（木）必着。



公益財団法人
新宿未来創造財団

新宿区立
新宿歴史博物館
Shinjuku Historical Museum

〒160-0008 東京都新宿区三栄町22番地 電話(03)3359-2131

<http://www.regasu-shinjuku.or.jp/rekihaku/>

交通情報

○JR・東京メトロ丸ノ内線・南北線「四ツ谷」下車徒歩10分

○東京メトロ丸ノ内線「四谷三丁目」下車徒歩8分

○都営地下鉄新宿線「曙橋」下車徒歩8分

●付近略地図

